

ふく チャレ

会津の映画館を復興、 文化を育てる人の輪を 次世代に



新富座ホール内のポスターは、すべて齋藤成徳さんが持ち込んだ個人コレクション。何もなかった館内を鮮やかに彩っています。手作りの大スクリーンを用いたホームシアターを地域に開放しています。

会津新富座
齋藤 成徳さん
(会津美里町)

大の映画ファンで、映画に関わるコレクションを多数持つ

齋藤さんは、所持品を整理する広い場所を求め、定年退職後に只見町へ。「地域の方々が私のコレクションに興味を持ってくれて、映画のポスター展を開催していました」。その後、縁あって約50年間閉鎖していた映画館「会津新富座」を地元の方から紹介され、2019年、会津美里町に移住。しかし当時は施設が閉鎖されており、ホールには何もない状態。齋藤さんが自ら整備しているところに、地元の方が一緒に参加して作業してきました。

齋藤さんは新富座での試写会の他にも、「会津新富座と歩む会」のメンバーとともに「このホールを地域の皆さんで活用しましょう」と



往年の映画のポスターを看板にするなど、昔懐かしい映画館のたたずまいが復活しました。



2階の映写室に現存する、往年の映写機。閉館当時のまま残されています。

呼びかけています。これに応える形で只見線の関係者が集まり出し、その結果、映画「霧幻鉄道」の上映に結びつきました。

齋藤さんは「今後、たとえば地域おこし協力隊など若者の力を借りて、自分の活動を次の世代へ継いでいけたらうれしい」と、スクリーンから地域へと、新しい夢に向かって動き出しています。



JR只見線の復旧の軌跡を描いた映画「霧幻鉄道」の上映会は沿線各地などで開催され、好評を博しました。